

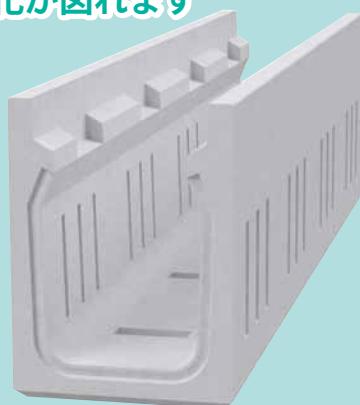
貯留・浸透型

DCT 浸透側溝【直壁落蓋浸透側溝】

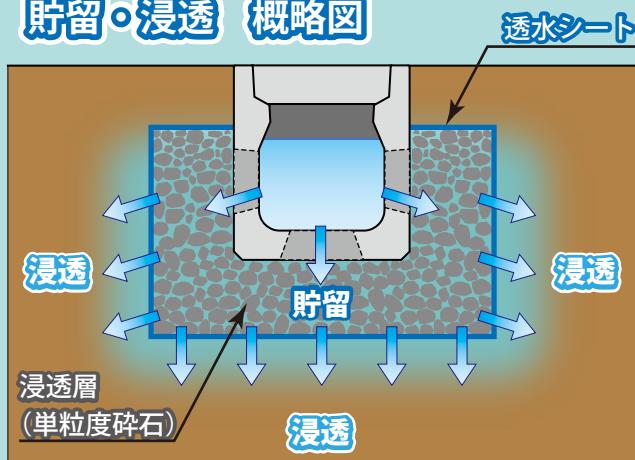
新たな水害対策【流域治水】

内水氾濫のリスク低減

地下に浸透させることで調整池の
小規模化が図れます



貯留・浸透 概略図



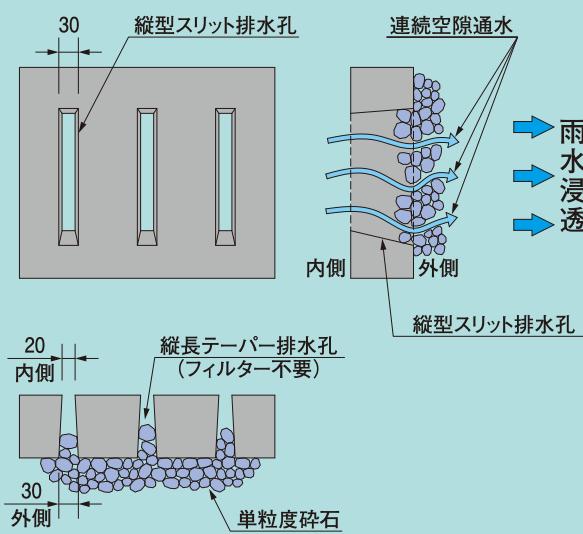
一般的に都市の排水能力は「1時間降水量50ミリ」を基準に設計されている。しかし、近年の降雨パターンの変化により、この想定を超える短時間強雨が増加しており、既存の排水施設では処理しきれないケースが増えている。その結果、家屋の浸水や道路の冠水を引き起こす内水氾濫のリスクが高まり、さらに河川の水位も急上昇し、越水や破堤による外水氾濫の発生もある。

こうした状況を受け、国や自治体は新たな水害対策として「流域治水」の推進を進めている。従来の河川区域や集水域にとどまらず、氾濫域を含む流域全体を対象とし、河川管理者（国・都道府県・市町村）だけではなく、企業や住民など地域全体の関係者が協働して、多層的なハード・ソフト対策を進める取り組みである。

流域治水を支える貯留・浸透 高まるP-Ca製品への期待感

1. 浸透側溝は流末河川への排水量を減らすことができ、内水氾濫のリスクを軽減でき、調整池の小規模化が図れます。
2. 雨水を地下へ浸透させることで、保水性のある水循環サイクルが復元でき、地球温暖化防止に貢献できます。
3. 雨水を地下へ浸透させることで、緑地や植樹帯の木々に潤いを与えることができ、環境に配慮することができます。
4. 車道側への浸透層（単粒度碎石）はゆるみが生じるため対策については裏面をご参照ください。※

スリット部詳細図

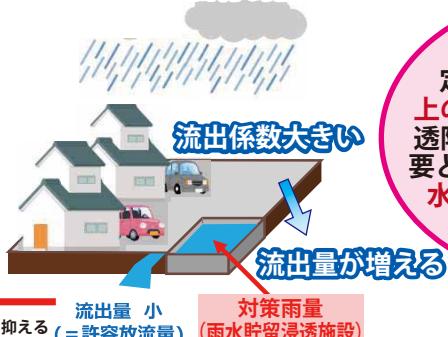


雨水浸透阻害行為とは

雨水浸透阻害行為前



雨水浸透阻害行為後



特定都市河川に指定地域では1,000m²以上の開発において、雨水浸透阻害行為の許可申請が必要となり、調整池などの「雨水貯留浸透施設」が必要となります。

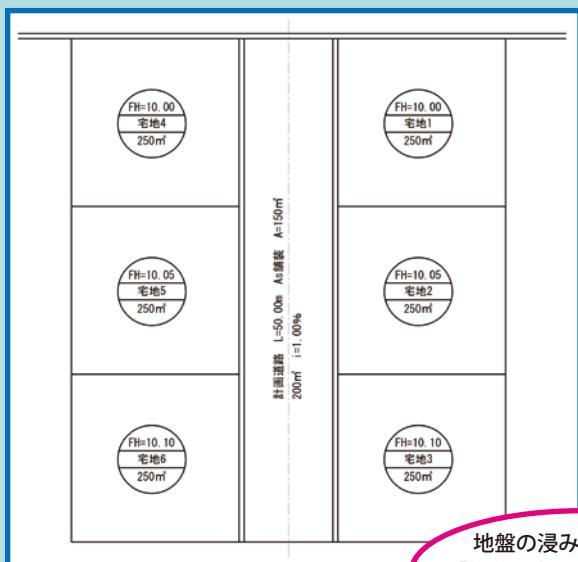
例えば、約1,700m² (0.17ha) の雨水浸透阻害行為を行うと。。。

開発行為前の最大雨水流出量 0.01148 m³/se (流出係数 0.200)

開発行為後の最大雨水流出量 0.05168 m³/se (流出係数 0.900)

よって、対策雨量 (カットする対策) は0.04020 m³/se となります。

計画平面図



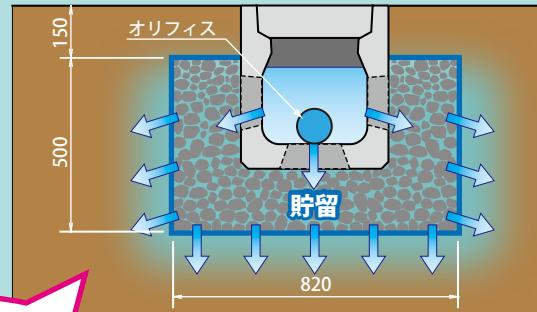
地盤の浸みこむ数値を
【飽和透水係数 k_0 (m/s)]
で表します

必要な調整池の容量は、
約100m³となります。

※深さ 1.0m、オリフィス φ75mm

DCT 浸透側溝を使用すると、
対策雨量を浸透させることができます。

※DCT 浸透側溝 300×300
飽和透水係数 $K_0=1.5\times 10^{-4}$ 、オリフィス φ100mm

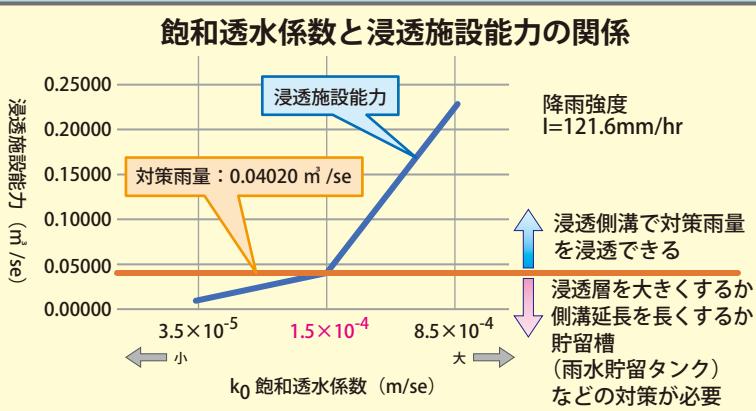
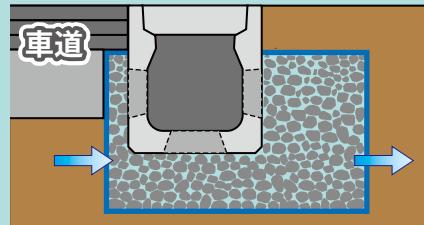


粒径による飽和透水係数の概略値

	微細砂	細砂	中砂
粒径 (mm)	0.05 ~ 0.10	0.10 ~ 0.25	0.25 ~ 0.50
k_0 (m/s)	3.5×10^{-5}	1.5×10^{-4}	8.5×10^{-4}

出展：浸透型流出抑制施設の現地浸透能力調査マニュアル試案
(旧)建設省土木研究所

*車道直下に浸透層がかかる場合は、荷重を避け
浸透層の位置を調整することができます。



佐賀営業所 TEL (0952) 64-8900 FAX (0952) 64-8907
唐津営業所 TEL (0955) 58-7113 FAX (0955) 58-7114
福岡営業所 TEL (092) 292-7756 FAX (092) 292-7757
長崎営業所 TEL (095) 818-1320 FAX (095) 818-1321



不二コンクリート工業株式会社

本社 〒843-0233 佐賀県武雄市東川登町大字永野7552-2
TEL (0954) 23-1211 FAX (0954) 23-3167